

第7回 豊島区教育ビジョン検討委員会

日時：令和元年9月13日（木） 午後3時～
場所：豊島区役所 教育委員会室（本庁舎8階）

【 次 第 】

- 1 開 会
- 2 議 事
 - (1) 計画（案）について
 - (2) その他
- 3 閉 会

◆配布資料

- ・資料1 …… 「豊島区教育ビジョン 2019—豊島区教育振興基本計画（第Ⅱ期）—（2019年～2024年）（素案）」に関するパブリックコメントの実施結果について
- ・資料2 …… 豊島区教育ビジョン 2019—豊島区教育振興基本計画（第Ⅱ期）—（2019年～2024年）（案）

《連絡事項》

■議事録の確認について

第6回の議事録をお配りしています。

修正点等ございましたら、次回委員会にお持ちいただくか、メール、電話にてご連絡ください。

【事務局連絡先】

豊島区教育部庶務課 担当：木本・荒木田

電話：03-3981-1571

メール：A0024004@city.toshima.lg.jp

「豊島区教育ビジョン 2019—豊島区教育振興基本計画(第Ⅱ期)—(2019年~2024年)(素案)」
に関するパブリックコメントの実施結果について (案)

1 パブリックコメントの募集について

- (1) 募集期間: 令和元年8月1日から令和元年8月28日まで
- (2) 募集方法: 広報としま7月21日号、区ホームページに掲載
- (3) 閲覧場所: 区民事務所、図書館、区民ひろば、行政情報コーナー、庶務課窓口、区ホームページ

2 パブリックコメントに対するご意見等について

- (1) ご意見の受付件数: 13件

内訳: 電子メール 12 件、ファクシミリ 1 件、持参 0 件、郵送 0 件

- (2) ご意見の概要及び区の考え方

※ここにご紹介するご意見については、プライバシーの関係からいただいた方の住所・氏名は掲載しておりません。

No	ご意見の概要	件数	区の考え方
1	<p>【キャリア教育について】</p> <p>キャリア教育に関連した施策が少ない。将来像を自分でイメージできる力をつけてあげたいと考える。学校だけでなく、地域や企業等と連携し、子供が実際の社会の仕組みやそこで活躍する人々に触れることのできる機会を、職場体験といった行事だけでなく、日常の教科の授業でも積極的に作って欲しい。</p>	1	<p>ご意見を参考にさせていただき、施策の実施内容をより明確にするため、第4章に施策4を追記しました。</p> <p>今後も体験活動だけでなく、各教科においてもキャリア教育の視点を取り入れた指導の充実を図っていきます。</p>
2	<p>【授業の在り方について】</p> <p>座学にとらわれず、豊島区の持ち味を生かした、ゲストによる授業をビジョンに取り入れてもらえないでしょうか。豊島区の子供たちのことを大切に思う気持ちは、先生も保護者も区民の方々もみな同じだと信じている。もっと学校は保護者、地域、企業を信じて頼りにして良いと思う。</p>	1	<p>ご意見を参考にさせていただき、施策の実施内容をより明確にするため、第4章に施策4を追記しました。</p> <p>今後も体験活動だけでなく、各教科においてもキャリア教育の視点を取り入れた指導の充実を図っていきます。</p>
3	<p>【国の指導要領改訂内容について】</p> <p>「これまで地道に取り組み蓄積されてきた実践を否定し、全く異なる指導方法を導入しなければならないと捉える必要はないこと」の記載は、とても良い視点である。教育再生が叫ばれてしばらくになりますが、</p>	1	<p>国や都の計画等を参考にし、かつ、豊島区の特徴を生かしながら、良いものは継承しつつ、新たな課題にも対応する計画となっています。</p> <p>キャリア教育の充実につながるような外部人材と連携した授業を実施していきます。</p>

	再生とは死んだものがよみがえることです。なんだか今まで自分が取り組んできたことが全てダメだったように感じて違和感を覚えていた。		
4	<p>【学力向上について】</p> <p>学力向上は、授業改善を含めて質的側面と授業時数の確保や補充教室などの量的側面、そして図書室や学習室、ICTなどの環境整備と考える。その点、豊島区は環境整備なども進んでいるので、恵まれた環境にあると思う。</p>	1	評価いただきありがとうございます。豊島区では、国の配置基準に則って、環境整備を進めています。今後も教育環境の整備に努めていきます。
5	<p>【豊島教員ミニマムについて】</p> <p>豊島教員ミニマムの「子どもに学びがいを、教師に教えがいを、学校に元気を!」を見ると、教育行政に携わる人々がこのような姿勢で学校の教育活動を支援している豊島区に魅力を感じた。</p>	1	評価いただきありがとうございます。今後も評価いただけるよう努力していきます。
6	<p>【小中一貫教育について】</p> <p>小中連携、小中一貫教育については小学校と中学校では文化が違う中で難しい側面がたくさんあるように感じる。表向きは連携しているように見えてもなかなかうまくいかないことが多い。小学校と中学校の教員が互いに理解を深めることが一番であり、そのために区小中研(教育会)も小学校と中学校が一緒に行うことも必要だと思う。</p>	1	<p>小・中連携校では小・中の職員室をひとつにするなど、教員の連携が図れる環境を整備しています。</p> <p>それ以外の学校でも「定期的に授業を見合うなど、小中学校の相互理解につながる機会をもつこと」によって、連携を図っています。</p>
7	<p>【計画策定の趣旨について】</p> <p>PDCA サイクルは脱工業化社会においてはもはや通用しないという批判もある。具体的には VUCA の環境には不向きであること、スピード感がない、という指摘もある。それでもこれからの社会を見すえた教育において、PDCA サイクルにこだわる理由は。</p>	1	<p>施策を進めていくうえで、実施業務の評価や見直しの作業は必要であると考えています。教育に関する事務の点検・評価や区で実施する事務事業評価を毎年実施することで、激動する社会変化にも素早く対応していけるものと考えています。</p> <p>また、豊島区としては事務事業評価を毎年実施しており、この実施手法においても PDCA サイクルを活用した評価を実施しています。</p>

8	<p>【豊島の子七か条について】</p> <p>「七 毎日運動 進んで体を動かし、心も体もきたえよう」とあるが、なぜ毎日なのか。休養も必要ではないか。運動を継続的に実施したり、生涯スポーツを実践したりする上では、個人の体力や意欲に応じた実施が望ましいのではないか。また、「毎日」という表現から、押しつけられる運動のあり方とならないか。P.63では「NO.83 豊島の子七か条の徹底」とあり、「徹底」という言葉からも押しつけられるあり方を感じる。</p>	1	<p>豊島の子七か条は、「基本的な生活習慣」、「学習習慣・読書週間」、「運動習慣」について、子供一人一人が、自ら定着させるように学校で、家庭で働きかけるため、豊島の子供に求められる態度をまとめたものです。決して子たちに押し付けていくものではありません。</p>
9	<p>【教育推進事業(SDGs)の取り組みについて】</p> <p>「NO.29 持続可能な社会づくりに向けた教育推進事業(SDGs)の取り組み」とあるが、SDGsではなく、ESD ではないか。SDGsは持続可能な開発目標のことであり、それを教育で実践していくのが ESD である。区民に間違った情報として伝わらないだろうか。</p>	1	<p>ご意見を参考にさせていただき、表記を整えました。</p>
10	<p>【確かな学力の育成における、現状と課題について】</p> <p>「教員が児童(生徒)との対話を大切にし、児童(生徒)をより理解するようにしてほしい」という意見が多いことから、保護者は教員が児童(生徒)と十分に向き合えていないことを心配しているともとらえられる。向き合えていない原因として、教員としての資質・能力よりも、教員の働き方に大きな課題があると現場にいて感じる。「教員の指導方法や指導内容の改善」と同時に、本質的である「教員の働き方の改善」を課題として取り上げないのはなぜか。</p>	1	<p>ご意見のとおり、教員の働き方を改善することによって、教員が児童・生徒と向き合う時間を確保できるようになりますので、今後も「豊島区学校における働き方改革推進プラン」に基づき、改善に取り組んでいきます。</p>

11	<p>【確かな学力の育成における、取り組みについて】</p> <p>「グローバル化に対応した教育の充実」の項目にこそ、「NO.29 持続可能な社会づくりに向けた教育推進事業の取り組み」を入れるべきではないか。</p>	1	<p>ご意見を参考にさせていただき、表記を整えました。</p>
12	<p>【豊かな心の育成における取り組みについて】</p> <p>「NO.51 地域ボランティア活動の推進」について、地域との連携は大切であるが、学校が主導で行ってしまうことは地域の教育力の低下を招いてしまわないか。また、教育委員会からトップダウンでおりにくる事業、学校が計画する取り組みに関して、子どもの主体性は置き去りにされ（積極性は見とれるが）、はたして子どもたちに真にボランティアマインドを育ませることができるのか。そして、教員の働き方の観点からも、学校から地域に委譲する優先度の高い事業ではないか。P.72の「家庭と地域の教育力の向上」で挙げている課題とも矛盾しているように感じる。</p>	1	<p>ご指摘いただきましたとおり、学校が地域と連携しながら児童・生徒が主体的に取り組むことで、地域ボランティア活動の大切さを実感させていきます。豊島区ならではのコミュニティ・スクールの仕組みを最大限に生かすなどしながら、推進していきます</p>
13	<p>【教師力の向上と魅力ある学校づくりにおける取り組みについて】</p> <p>「NO.86 豊島区学校における働き方改革の推進」と掲げるのみにとどまり、その他のページを見渡しても具体的な改善方法がなく、重要というわりには、本ビジョンの中での扱いが軽いのではないか。RPA の導入、区独自に現場の教員や講師やスクールサポーター等の人員を増やすこと、タイムカードや留守番電話機能付き電話の設置、事業の廃止など、具体的な取り組みについての記述をしてほしい。</p>	1	<p>平成31年3月に策定した「豊島区学校における働き方改革推進プラン」に基づき、今後さらに具体的な取り組みを進めていきます。</p>

14	<p>【豊かな心と規範意識の育成について】</p> <p>豊島区立の中学校（一部）では、「男子生徒および女子生徒が腕時計をはめる時、時計盤が内側に向けてつける。」という習慣を校則としてつけて欲しい。</p> <p>そのことで、多くの人へ「かわいい」「かっこいい」「おしゃれ」などの好印象を与えることを理解したり、お互いに協力して社会づくりとして努力することが大切で、そうすれば、学校でも日常生活でも男女とも腕時計が内側に向けてはめる人が増えると思う。</p>	1	<p>校則で、腕時計の身につけ方まで規定する必要はないと考えます。ただ、個性を理解し、尊重することは重要であると考えています。</p>
15	<p>【豊かな心と規範意識の育成について】</p> <p>今後は、多くの男子小・中学生が髪の毛を長く伸ばしてツインテール（二つ結び）やポニーテール（後ろでまとめて結ぶ髪型）をしたり、両耳にイヤリングをつけたり、ネックレスをつけたり、スカートを履いたりして、そのことが、多くの人から「かわいい」「かっこいい」「おしゃれ」など好印象を与えることを理解したり、お互いに協力してそういった社会づくりとしていくことが大切である。男女問わずそのファッションスタイルに関心をもって理解して好かれるようにして欲しい。</p> <p>髪の毛の長い男の子やイヤリングをつけている男の子はなるべく多い方が望ましいと思う。そうすれば、「男子イヤリング」（男子が身につけているイヤリング）や「男子スカート」（男子が身につけているスカート）など、流行する事を実現してくれたらいいと思う。</p>	1	<p>個性を理解し、尊重することは重要であると考えています。こういった髪型にするか、何を身につけるかという点にも個性が反映されるものと考えますので、他人が決めるのではなく、あくまでも本人の意思を尊重すべきと考えます。</p>

16	<p>【豊かな心と規範意識の育成について】</p> <p>豊島区立の中学校では、新入生の時から、多くの男子も女子もリボンのつけ方とスカートの履き方の指導をしてほしい。男子がリボンをつけたりスカートを履いたり、女子がスラックスを履く人数もなるべく多い方が目立たなくて、安心して学校生活ができる。このことが、多くの人へ「かわいい」や「かっこいい」や「おしゃれ」など好印象を与えることを分かっているほしい。</p>	1	<p>リボンやスカートを身につけることを指導する必要はないと考えます。ただ、個性を理解し、尊重することは重要であると考えています。</p>
17	<p>【いじめ・不登校対策の充実について】</p> <p>生徒（転校生や部活に新しく入った生徒さんを含む）の自己紹介の際、クラスメイトに知られたくないときは、先生に「すみませんが、自己紹介したくありません。」と伝えればいい。そうすれば、周りの人やクラスメイトからいじめられたりする心配はなく、いじめの発生件数および不登校の児童数は減ると思う。</p>	1	<p>本人がいやがることを無理に行わせることはありません。今後も子供たち（園児・児童・生徒）の気持ちに寄り添いながらいじめや不登校の未然防止に努めていきます。</p>
18	<p>【いじめ・不登校対策の充実について】</p> <p>人からあいさつされた時、自分から「あいさつはお断りします。」や「すみません、話しかけられても私には関係ございませんので、知らんぷりのままで結構です。」と言った時でも、いじめられたり、ケンカにならないように先生から指導してほしい。</p>	1	<p>あいさつすること自体は、大切なことと考えています。しかし、あいさつの仕方や言葉遣いによっていじめが行われるとすれば、その解決のため、子供と一緒に考えていきます。</p>
19	<p>【いじめ・不登校対策の充実について】</p> <p>ある生徒さんが一人ぼっちのままでも、孤立したままでも、小学6年間または中学3年間安心して学校生活ができるサポート体制を整えて欲しい。</p>	2	<p>学校生活におけるサポートはしっかりと行っていきます。ただ、一人きりになってしまったり、孤立してしまうこと自体が望ましいことではないと思いますので、その解決のためにもしっかりと対策を考え、取り組んでいきます。</p>

20	<p>【教員の現状改善のために】</p> <p>全体的に盛りだくさんで、現場の教員にとっては、やらなければならない仕事が増えるようになると思う。働き方改革が叫ばれる中、スクラップエンドビルドが必要であり、現状を改善するためには、思い切った削減が必要に思う。そのことに関する記述が不十分に思う。</p>	1	<p>ご意見のとおり、教員の職務が過度の負担にならないように、「豊島区学校における働き方改革推進プラン」をより一層、推進するとともに、研修や研究、各種事業等を事業評価から見直し改善を進めていきます。</p>
21	<p>【学級あたりの人数について】</p> <p>1学級あたりの児童・生徒数が、国基準はあいかわらず40人となっているが、他県・他市などではそれぞれの自治体の予算で35人学級や30人学級を実施しているところも数多くある。東京都は、小学校1・2年生、中学校においては中1ギャップ解消のための35人学級が1年生で実施されているが、小学校では3年生、中学校においては2年生になると、40人学級に戻され、そのため学級減となる場合もあり、過密感が一気に増し、児童・生徒および教員の負担感がかなり増しているのが現状である。このような観点から、区独自の基準を設け、まずは上記のことにより学級減になることがないように予算措置、人員配置を検討すべきではないか。</p>	1	<p>小学校の3年生以上、中学校の2年生以上の学級編制の基準につきましては、国や都の基準に基づいて対応しています。区独自の基準の設定につきましては、ご指摘にあります、過密さや児童・生徒・教員の負担感の状況、国や都の動向を踏まえ、検討していきます。</p>
22	<p>【学校選択制について】</p> <p>地域と学校の連携・協力の仕組みづくりが提起されている。児童・生徒は地域のなかで生まれ育ち、地域の教育力によって、健全に育つと思うので、方向性についてはは同感だが、そうであるならば、学校選択制を見直すべきではないか。地域の子が選択制によって他の学区域に通うことにより、地域とのつながりがかなり断たれているのではないかと思う。</p>	1	<p>隣接校選択制は、特色ある教育を推進し学校教育の活性化を図ること、児童・生徒、保護者の学校選択の意向を尊重し選択の幅を増やすことなどを目的として実施しています。</p> <p>一方で、ご指摘のとおり、通学校や地元地域での協力のあり方等の課題もありますので、隣接校選択制の運用改善については、引き続き検討をしていきます。</p>

23	<p>【先生が生き生きと仕事ができるようにすることについて】</p> <p>新学習指導要領の実施に向けて、教師の仕事は増えるばかりである。そうした中で、「豊島区学校における働き方改革推進プラン」が策定されたのは素晴らしい。しかし、教える内容が減らないのではブラックと言われるようになった働き方を改善していくのは困難である。教科以外にも〇〇教育というものが増え、削減したということがほとんどない。</p> <p>小学生の保護者アンケートで「教員が児童との対話を大切にし、児童をより理解するようにしてほしい」と求めているように、ゆとりをもって、教員が児童と接する姿、先生がいきいきと仕事ができることが、もっと豊島区の教育ビジョンでクローズアップされていくよう願う。</p> <p>「こどもに学びがいを、教員に教えがいを、学校に元気を！」の豊島区教員ミニマムを大切にするためにも、学校で取り組みことのスリム化を実施していかなければならないと思う。</p> <p>教員の負担軽減のためになる、授業づくり支援員、スクール・スキップサポーター、部活動の外部指導員の配置等はさらに拡充して欲しい。</p>	1	<p>よりよい、質の高い教育の実現のためには、教員の負担軽減も含めた働き方改革が大切と考えています。支援員、スクール・スキップサポーター、部活動指導員等の適正な配置や拡充につきましては、児童・生徒・教員の負担感の状況、国や都の動向を踏まえ、今後も検討していきます。</p>
24	<p>【教師力の向上と魅力ある学校づくりについて】</p> <p>学校を取り巻く環境の変化と学校に求められる役割の拡大とともに、教職員の長時間勤務の実態に触れ、「教職員の負担軽減等の方策について検討し、対策を進めることが求められています。」と述べている。このことが、基本方針のひとつに位置づけられたことは重要である。</p> <p>また保護者アンケート結果において「教員が児童生徒との対話を大切</p>	1	<p>評価いただいたものと考えます。ありがとうございます。教育ビジョンが実効性のあるものとなるよう努力していきます。</p>

	<p>にし、児童をより理解するようにしてほしい」「教科の基礎的な学力向上に力を入れてほしい」等の要望が多かったことは、教職員が望む「児童生徒と向き合う時間と深い学びを展開する授業準備の時間がほしい」という要望と一致するものである。</p> <p>過労死ラインを超える教員が多い実態とその働き方によって豊島区の教育が成り立ってきたことを真摯に受け止め、教職員の負担軽減等の具体的な対策がビジョン 2019 に生かされることを強く希望する。</p>		
25	<p>【オリンピック・パラリンピックの機会を生かした教育の推進について】</p> <p>「豊かな国際感覚」とありますが、具体的にはどんなことを目指しているのか。</p>	1	<p>オリンピック・パラリンピックの機会を生かした教育の推進のうち、「豊かな国際感覚」の取組としましては、地域の留学性や外国人、大使館と手紙や電子メール、直接訪問などによる交流が挙げられます。このような取組を通して、オリンピック・パラリンピックのレガシーとしての誇りや国際的な親交を深めていくことを目指しています。</p>
26	<p>【オリンピック・パラリンピックの機会を生かした教育の推進について】</p> <p>オリンピック・パラリンピックが大事なのではなく、スポーツをすることの素晴らしさとは、どんなことか、運動やスポーツによって何が学べるのか、具体的に教えてほしいし、それが根本的な問題である。</p>	1	<p>オリンピック・パラリンピックの機会を生かした教育の推進としましては、実際に、オリンピック・パラリンピックの競技を体験するプログラムもあり、スポーツをすることの素晴らしさも学べるように推進していきます。</p>
27	<p>【道徳教育での評価について】</p> <p>道徳教育は、大津のいじめ問題を契機として必修となったが、国の方針とはいえ、内面や人間性に対する評価となり、評価をつけることには強く反対する。</p>	1	<p>道徳教育の評価は、内面や人間性そのものを評価するものとしてではなく、あくまでも児童・生徒の成長や学習の状況を認め・励ます評価として行っています。</p>

28	<p>【生涯にわたって運動に親しむ態度の育成について】</p> <p>連携した取り組み例として、野外活動や外遊びの推進とあるが、目指すものは間違っていないが、豊島区は、公園面積や緑地が少なすぎる。教育の面からも、日常的に自然と触れ合えるように提言してほしい。</p>	I	<p>豊島区の小中学校では、日常的な学校において態度の育成に努めるほかに、これまでも宿泊を伴う行事や校外の学習等において、野外活動や自然に親しむ活動を推進してきました。ご意見のとおり、今後も、さらに日常的に自然と触れ合えるような施策を進めていきます。</p>
29	<p>【個の成長を支える教育の充実について】</p> <p>子供たちが自らの夢に向かってとあるが、夢のある子はよいが、経済的貧困により、進学も希望通りにいかなかったり、統計上には現れない自分や夢や将来を探している児童・生徒を尊重する教育でありたい。</p>	I	<p>全ての子供たちが、自分に自信をもち、将来に夢や希望を描ける力を身に付けていけるような教育活動を推進していきます。</p>
30	<p>【学力テストについて】</p> <p>あくまでも、普段の学習の成果であり、学校や先生の評価に結びついたり、学力テストで点を取るためだけの補修を行うのはおかしい。</p>	I	<p>学力調査は、児童・生徒の学力への意識向上や教員の授業改善につなげるために、実施しています。今後も、その目的に基づき進めていきます。</p>
31	<p>【教育環境の整備について】</p> <p>学校のグラウンドを天然の芝にする。緑化を推進する。多摩産材などの木材を利用した木造校舎も目指す。</p>	I	<p>学校の運動場については、「豊島区立小・中学校の標準的な運動場整備方針」に基づき整備を進めています。</p> <p>緑化については、グリーンとしま再生プロジェクトにより、各学校への植樹を進めてきました。併せて、屋上緑化や壁面緑化、ビオトープの整備なども進めており、今後も学校が緑の拠点になるようにしていきます。</p> <p>また、学校改築時には、交流都市の桧や杉を積極的に活用して、校舎の木質化を図っています。</p>
32	<p>【教師の多忙化への対応について】</p> <p>豊島区での超過勤務の実態はどうか、という疑問。</p> <p>余計なアンケート調査や必要性のない押し付け的な研修プログラムはやめる。</p> <p>授業以外の事務作業を少なくする。</p> <p>長期休業期間は、夏・冬など1週間</p>	I	<p>アンケート調査や研修プログラムの精選、学校の事務作業の負担軽減、学校閉庁日につきましては、「豊島区学校における働き方改革推進プラン」に基づいて、推進しています。</p> <p>休暇取得を前提としない「学校休業日」を設けるかどうか、また、夏季休業日の期間を変更するかどうかにつきましては、今後、検討していきます。</p>

	<p>以上の学校休業日（完全閉校日）とし、教職員が、休暇を取らないで良い方向にする。学期の間に、教職員が自分を振り返り、次の学期に備えることができる。夏休みは7月21日から8月31日とする。</p> <p>一般社会では、ある程度の実績評価もあるが、中小企業で行われているところは少ない。教師が追いつめられる学校では、子供たちがいきいきできない。教師を志す人が減ってきているのも、このような原因である。豊島区は、子供たちも教師たちもいきいきできる場所へと舵を切るべきである。</p>		
33	<p>【全体をとおして】</p> <p>全体的に、抽象的な文言が目立つが、具体的なビジョンが明らかでない。</p>	1	教育ビジョンはあくまでも計画なので、このビジョンに基づいた具体的な取り組みを各園・学校で推進していきます。
34	<p>【1章 計画の策定について】</p> <p>計画の位置付けでは、「本ビジョンが豊島区基本計画の「子どもを共にはぐくむまち」分野の施策推進に関する計画という位置づけをもち、「子どもの権利に関する条例」の趣旨を踏まえ、「豊島区子どもプラン」「子ども・若者計画」をはじめ、関係分野別計画と相互関係・連携しながら教育の総合的な計画として推進する。」と記載しており、子どもが他者の意見を聞き、主体的に物事を考え、行動する子どもを育む教育に期待している。</p>	1	期待に沿えるよう努力していきます。
35	<p>【3章 豊島区が目指す教育について】</p> <p>豊島区教育委員会の教育目標の3項目は、素晴らしい教育目標だと思う。</p> <p>3項目とも、人格形成に寄与し、机上の学習だけでは体得できない豊かな人間性を育む目標であること</p>	1	評価いただきありがとうございます。期待に沿えるよう努力していきます。

	<p>が素晴らしい。</p> <p>他方、目標達成には学校のみならず、地域教育、家庭教育の充実が不可欠だと思う。</p> <p>次年度から、モデル的に学校と地域・家庭が連携協力するコミュニティスクール制度がスタートすると聞いた。</p> <p>文字通り、「教育は、家庭、学校及び地域のそれぞれが連携し行われなければならないものであるとの認識に立って、すべての区民が教育に参加することを目指していく。」で結ばれていて、素晴らしいと思う。</p> <p>子どもの安心安全を守るためにも、地域をフィールドとして実践から学ぶ教育を実現するためにも、先生の負担を減らすために協力者を募るためにも、多くの区民が教育に参加する機会を提供してほしい。より多くの方が子育てに関わる環境が、人間性豊かに育つ環境だと思う。</p>		
36	<p>【計画が目指す目標について】</p> <p>目指す目標は、子どもが尊重され、自己肯定感を育んでいくことが重要と記されている。さらに「子どもの最善に利益の保障」を掲げ、「子どもの意見表明権、決定権」に重きを置いていることに、感動した。豊島区の教育は、全国の自治体の教育ビジョンの中でも先駆的ではないか。</p> <p>学校が関与しながら、虐待やいじめで子どもたちの最善の利益が保証されない事件があとを絶たない。子どもの最善の利益を保証するために、学校だけで問題を抱えることのない計画にしてほしい。</p>	1	<p>評価いただきありがとうございます。期待に沿えるよう努力していきます。</p>

37	<p>【計画が目指す目標について】</p> <p>目標を実現すべく7つの基本方針のうち、基本方針5～7は学校・家庭・地域が連携協働して子どもを育てることを、明記していることに感動した。</p> <p>国は一億総活躍を掲げ、共働き家庭も増加しています。またひとり親家庭や、外国籍家庭等、家庭教育が不十分な環境で育つ子どもがいるのも事実である。</p> <p>人格形成に重要な就学前教育から15歳まで、切れ目のない教育を受けるためには地域のソーシャルキャピタルを十分活用してほしいと思う。</p>	1	<p>評価いただきありがとうございます。期待に沿えるよう努力していきます。</p>
38	<p>【5章 計画の推進に向けてについて】</p> <p>計画を推進するための体制強化として、豊島区教育委員会が音頭をとり、福祉・保健・教育等関係分野が連携を進めることは、素晴らしい。</p>	1	<p>評価いただきありがとうございます。期待に沿えるよう努力していきます。</p>
39	<p>【5章 計画の推進に向けてについて】</p> <p>子どもを取りまく地域応援ネットワークの連携イメージ図は、教育ビジョンの計画推進と位置づけ①の計画が実現することで、容易に実現できるネットワークだと思う。</p> <p>行政・教育・地域が連携することで、いじめや虐待を予防し、学校や教師を地域が支援する、学校を中心としたまちづくりへと発展すると思う。</p> <p>学校を中心としたまちづくりのその先に、持続可能な共生社会の実現があると思う。教育は人づくり、地域づくりの原点だと思う。</p> <p>人づくり、地域づくりまで見据えた教育ビジョン策定に感謝する。</p>	1	<p>評価いただきありがとうございます。期待に沿えるよう努力していきます。</p>